

二二六 曾谷殿御返事

夫そ法華經第一方便品云、諸佛智慧、甚深無量云云。釋云、境淵無邊故云甚深、智水難測故云無量。抑此經釋の心は佛になる道は豈境智の二法にあらずや。されば境と云は萬法の體を云、智と云は自體顯照の姿を云也。而るに境の淵ほとりなくふかき時は、智慧の水ながるゝ事つゝがなし。此境智合しぬれば即身成佛する也。法華以前の經は、境智各別にして、而も權教方便なるが故に成佛せず。今法華經にして境智一如なる間、開示悟入の四佛知見をさとりて成佛する也。此内證に聲聞辟支佛更に及ばざるところを、次下に一切聲聞辟支佛所不能知と説かるゝ也。此境智の二法は何物ぞ。但南無妙法蓮華經の五字也。此五字を地涌の居士を召出して結要付屬せしめ給。是を本化付屬の法門とは云也。然るに上行菩薩等末法の始の五百年に出生して、此境智の二法たる五字を弘めさせ給べしと見えたり。經文赫々たり、明々たり。誰か是を論ぜん。日蓮は其人にも非ず、又御使にもあらざれども、先序分にあらあら弘候也。既に上行菩薩釋迦如來より妙法の智水を受けて、末代惡世の枯槁の衆生に流